

sasayakanagara,kokoni,yoimonowo,todoketai
arigatou.2013年1月10日

(研究余話) 謙虚と敬虔

小学の2年から現在までの研究余話



プロフィール

Excuse Me.but Let's Introduce me by myself

略歴

I was born at 1950.

1969 Hirosimagakuin High School

1972 JSGS Member

1973 Osaka University

1977 Osaka Graduate University

1977 Hirosima Girls High School mathe teacher

1986 RERF researcher

1989 Apriciation from REDF

1991 Akenohosi Girls High School mathe teacher

1995 Oval Research Center free Researcher

1997 Thesis Prize on the Oval of Gescartes (JSGS)

2010 MSJ Member now

1994-2012 ICGG 6 times Speacher

1998-2011 ATCM 6 times Speacher

Books "道"、"I on I","Doval Geometry","学問と感謝",10 or so NoteBooks。

Exhibition on Geometry 9times (-2012)

目次

sasayakanagara,kokoni,yoimonowo,todoketa

Excuse Me.but Let's Introduce me by myself	p 1
研究 余話 No.1 ”初めての研究発表” 小学二年の時か、学芸会にて	p 3
研究 余話 No.2 本格的共同研究 小学4か5年	p 4
研究 余話 No.3 父の幾何学教育 学問	p 5
研究 余話 No 4 賞の価値	p 6
研究 余話 No5 中二の幾何学学習と成績	p 8
研究 余話 No6 楕円の接線	p 9
研究 余話 No7 処女論文	p 1 1
研究 余話 No.8 震え	p 1 2
研究 余話 No9 論文の別刷り	p 1 4
研究 余話 No10 発狂	p 1 6
研究 余話 No11 研究とは	p 1 7
研究 余話 No12 卵形線第二論文 1	p 1 9
研究 余話 No13 入試処理システム開発	p 2 2
研究 余話 No14 ライバル井下剛	p 2 4
研究 余話 No.15 Research With Maria	p 2 6
研究 余話 余話 No 1 f l o w e r our love for all	p 2 7
研究余話余話 No 2 人類の研究を救ったコンピュータトレース機能	p 2 8

研究 余話No.1

”初めての研究発表” 小学二年の時から、学芸会にて

私は、小学二年の頃、自然と遊ぶ野生児だった。

しかし、学校の先生が、母を通して、研究発表に場を設けてくれた。

そのときの題は、”ヤンマ取りの研究”である。

内容は、今でははっきりしないが、確か、

ヤンマの習性を利用した捕り方、三題である。

夏休みに、近くの畑や、田んぼで、ヤンマ取りして遊んだ、

今でも記憶が生々しい。発表のおかげである。

2013/04/02

研究 余話 No.2

本格的共同研究 小学4か5年

研究は、3階アパートの、各階部屋の温度の違いについてだった。

同級生が、各階に住んでいた。父の会社のアパートに。

30日ぐらい、朝昼夕方3回だったか、はかって記録した。

著しい、違いが、よく記憶していない

ただ、発表掲示用の模造紙に、父が、線データを載せるため

烏口で、墨の罫線を入れてくれたのを覚えている。

小学校の講堂で、壇上に上がり、一人で話した。

成果については、三階が一番暑いという記憶がある

その理由を、屋上のコンクリートの、

太陽熱のせいにしたように、覚えている。

しかし、違いをはっきりさせるには、データのはかり方に問題があった事を

言及したように思う。忘れず、3人が、寒暖計を見ル事の難しさがあった。

もちろん、母や父の入れ知恵だったようだ。

何々を考えてごらんといいながら、発表原稿を作ったように思う。

研究 余話 No.3

父の幾何学教育

父は、私が小学5年と時、烏口の使い方と、

辺を与えて、正五角形を描く方法と、

外接円を与えて、正五角形を描く方法を教えてくれた。

現在、その方法が、 $(-1+\sqrt{5})/2$ で証明できることを知っている。

父は、就職して、定時制に通った。

大阪大学付属専修大学である。

父の蔵書は、台風の洪水でつかり、一二冊しか残っていない。

寂しい限りである

研究 余話 No 4

賞の価値

私は、小学4年五年で、賞を50近く取った。

そろばん大会の賞である。

最大の賞は、山口県大会総合優勝の賞状と優勝カップである。

一つのたいかいで種目別、個人賞を三つも4つもとる。

表彰台はないが、会場で表彰される。

しかし、表彰状は、小学校の私には、紙切れでしかなかった。

賞品のノートをもらうのがうれしい貧しさだった。

しかし、47歳で、もらった賞、論文賞は、私の人生を変えた。

賞をもらったからには、国際会議で発表できる研究をしなくてはと思いだした

そしてそれ以後、国際会議で、12回、発表した。

しかしそれは、遠征費個人持ちの金で買う発表の場でしかない。

国内の、学会もしかり、金がなければ、発表もできない。

今考えれば、近くではあったがそろばん大会の遠征費もしかりである。

もちろん招待講演ができるぐらいに、

論文を緻密に書く丁寧さがあれば別であるが、

小学校の賞が、緻密さの馬鹿らしさを教えたらしい。

本当の賞は、幾何学の小冊子を作成し、

図書館に寄贈して、もらった、

市の教育委員会からのはがき一枚の感謝状かもしれない

賞の価値が、人生を変え、努力しても、お金を使うばかりであった。

なにが大切かを、十分考えさせてくれている。

本当に役に立つ研究とは、

皆個人が、犠牲になるものでしかないのではないだろうか。

悲しい運命である。アーベルの病死を読んで、世の中の悲哀もしている。

研究は、個人の運命を変え、世界の思考を変える事もある。

それを、今経験しつつあるようだ。

2013/04/03

研究 余話 No5

中二の幾何学学習と成績

私は、有名進学校に通った。中学二年の時ユークリッドの証明問題に夢中になった。

宿題に出る問題を、夢に出て、解けたと思うぐらい夢中になって解いた。そのおかげで、

平均点が 30 ぐらいの時 80, 90 点であった。おまけに優秀者の名を

先生がプリントして発表してくれた。成績表に、100 満点がついた。

点数とその評価の違いも知った。

幾何学が、今もできるスキルはこのときの学習にあると思っている

ありがたい教育を受けたものだ。先生ありがとう、ここで改めていわせてもらおう。

宿題を作ってくれたことに。

研究 余話 No6

楕円の接線

楕円の接線が、私の人生を作った。

たかが、高三の大学入試の演習問題。

しかし、その図が、私の人生を決めた。

そこにあった垂直 2 等分線。1:1 に内分する点を通る。

この線を 3:2 など一般に $m:n$ にすればどうなるか。

楕円がどんな曲線になるか、

軌跡を簡単に描くことはできないが、

数点厳密に作図して結ぶと卵形が描けた。

大発見と心に秘めた。

そして、その秘密を抱いて、大学に行った。

そこに図学の大先生が待っていた。

技術における構成幾何学というドイツ語の大書を

10 年かけて翻訳された助教授増田祥三先生との出会い

先生に、卵形線の秘密を漏らした。

思う付き程度ですねと簡単に発見をいなされた。

私は、それが、大発見であることを実証する

スタートをこの先生の指導の下に始めた。

現在 DOVAL 幾何学として、自費出版の本を残している。

40年にわたる研究である。

研究人生の研究余話の本当の始まりである。

今後の余話の進行の前に

このとき、卵形線を、点と円からの距離の比が一定な曲線と

定義し得たことをいっておく。

ありがとう、我が研究を見守ってくれた先生

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No 7

処女論文

卵形線の 4 年間の秘密研究が、

デカルトの卵形線の二、三の性質という、日本図学会の初学生会員

蛭子井博孝が描いた、論文になった。

この研究余話とこれから当分続ける。

処女の恐れは、その題付けにすべてが含まれている。

ここにその秘話を公開する。

何しろ、 x 、 y 座標という解析幾何の発見した歴史上の大幾何学者であり、

哲学者でもあるルネ、デカルトと関わるのだから。

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No.8

震え

4年間の秘密研究に題をつけて、論文として投稿すること、

大発見すれば、それを公開すれば、

人生すべてうまくいくと勘違いしていた、

応用物理学科の学生、自分の発見を人のものにするか

自分のものにするは、題付けで変わると思って、恐れを抱いた、初めての論文作り、

今時のpcがない、手書きで、原稿を書かねばならない時代

デカルトを入れるかどうか、単に卵形線の性質をするか、

デカルトの卵形線とするか、大問題であった。

デカルトが、その幾何学という題の本で、作図法を

述べている曲線が、自分が研究している曲線と一致した。

つまり、発見は再発見であった。発見か、再発見かにより、

この曲線の価値が決まるそう思い込んでいた。

数学とは、何かも知らない若き学生。

卒論と、学会発表という、訓練も積んでいない4年次前半

このときの論文の題図形おける恐れは、言いがたいものであった。

また、共著とするか、謝辞に入れるか、指導教官という仕組みも知らない

学生が書く論文に対する恐れ、それほどの恐れがある内容と今では自負できる

私の間が世に残るかどうかは、どうでもよい自分になた。運命的な、卵形線である。

何しろ、自分の、子供より愛するようになった数学研究の内容に対する恐れであった。

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No9

論文の別刷り

論文を書く人間にとって、一番の楽しみは、何か、

まず楽しみの一つ。それは学会誌に印刷され

た自分の論文を見ること。

学会誌とは、会員のすべての目に触れるもの。

ただし読んでくれるかわからない。

そして、会員が、まず捨てないで、

書庫に、永遠に残してくれるもの。

こう思える喜び、さらにぶつづりの楽しさ、

今時の、pcの活字印刷のない時代、

活字になることの喜びは、言いがたいものであった。

その別刷りの使い方を間違えてしまって、

そのときのものは20部のうち1部しか残っていない。

その研究を続けるためや

就職活動のために利用する代わりに、

内容も理解できない人たちに、自慢げに配ってしまった。

悲しき、末路の別刷りである

今それは、スキャナーでpdfに変えられ、息を吹き返してきているが。

ああ、経験のないものの悲しさである。

しかし、時代の進歩は、人の悲しさを消してくれている。

ありがとう、pc 技術屋さん。

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No10

発狂

自分が、研究時間を割いて、生活の糧にならなかった、論文作りの末、

発狂の運命になって、しまった。

これ以上、このことについては触れないことにする。

ただ、自殺しないで、発狂だけで、今日までいき、

ここに幾何学の成果を残せた幸せに感謝する

6 垂線を発見し、今は死んでも、悔いはない

投稿日 2013/04/03 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No 1 1

研究とは

研究とは、何かを考えるのは、

哲学者の仕事であるが、

私もこの問いをいつも考えている。

私になぜ、ドクターコースに進まなかったか、語る機会がきた。

それは、大学四年の時、助手の人が、論文の先取権を争っていたからだ。

何か見にくく感じた。同じ内容を先取権争いしているのが

、昔は、論文が、先取権で採用する時代であった。今もそうかもしれない。

しかし、私は、ここで提案したい。アイデア泥棒以外なら、

同じ内容をどちらが先に見つけても

いいと思う。独立に発見されることは、いいことだ。内容が、確実になるということだ。

まあ、特許に問題も、大きな問題である。アイデアの所有権を誰に与えるか

もし独立に見つけたものには、両方に与えれば、いいと思う。

専守防衛とか先取権の争い醜い。今は、ネットのおかげで、

先取権をかなり正確に伝えられる時代になっている。

私は、割り込みのプライオリティ処理の

プログラム作成に関わったおかげで、

物事の大事さがよくわかるようになった。

真実を報告して、死刑になった、ガリレオの事実や、

決闘をして死んだ、がロアや、貧乏で死んだアーベルや、

精神病院で死んだ、カントールなど、歴史上には、

死後にしか認められない不幸な人がいる事実をみんなが、

知らねばならないと思う。歴史を作る時代時代の人が幸福でない

なければ、有史は、悲しいものでしかない。

時代を超える仕事が、その時代に認められれば、人類は、より早く進歩する。

歴史の監視人は、何をする人は、政治家か、数学者か、みんなで考える時代である。

研究とは、何かを考えると、歴史の重みを同時に考えねばならないと思う。

研究は、続けられねばならない。

2013/04/05

研究 余話 No12

卵形線第二論文

私は、大学院に進むことになったが、進路に迷った。

大学卒業の春、卵形線をもっと本格的に研究しよう思い、

独学で、群論の本を読み出した。

群環体の定義は、彌永先生の射影幾何学という本の導入分にしてあるのを、

マスターしていた。工学部の人間には、

まだ、代数学の基礎は、教育されない時代であった。

私は、卵形線が、4次曲線で、

代数方程式の解の公式が、4次までであるという、事を聞きかじっていた。

5以上に、解の公式がなぜないのか、

群論を勉強しないとわからないということも知っていた。

とにかく春休み一週間しかない。

一冊の倍風館の群論の基礎に食いついた。

代数学が、記号で、つまり文字が、

運動を表すという、回転群の話を読み、

その抽象性に、びっくり、

頭をついていかせるのに、

6時間フルマラソンをするぐらいの集中力が、必要であった。

一日 6 時間 6 日間、で読み終えた。

もう頭は疲れ切っていた。

ああ、数学が、これほど難しいのか、

自分の能力のなさに、悲嘆に暮れた。。。。。。

それから、進路と卵形線の反響のなさに、

失意し、休学する羽目になった。

そして、進路をコンピューターに変え、

ネットワークコントロールプログラムの開発に加わった。

しかし卵形線の多焦点化などの夢を追いつつ、

直観幾何で、4 次曲線の頂点の位置を突き止め

証明した第二論文をサイドワークとして書き上げることが、できた。

これも、第一論文を応物一の秀才、O 君に、

” 論文一つぐらいなら、誰でもかける”、という批判を受け、

” なにくそ” と思ったから、かけたことである。

同じテーマで、論文を積み上げることができた。

卵形線が、奥深いものであったことに感謝している。

とにかく大学院でも、サイドワークとして、卵形線を研究した。

本当にいい加減な学級生活であった。

本業以外に研究することが、本業がおろそかになることは、見えていた。

修士を 4 年かけどうにか修了させてもらうとき、

指導教官が、”ぼろな論文を書きあがって”と

つぶやいていたのを偶然聞いてしまった。

とにかく第二論文に相当時間を割いたということである。

それは、参考文献だけで内容がわかるのではなく、参考文献を岩波の数学辞典にただけの、

難解至極のものに成ってしまった。

ああ、まだまだ続けたかった、卵形線の研究である。

就職を自分で、履歴書を高校に送り、採用が決まり

教授に推薦書を書いてもらったとき、

教授が、下書き原稿を、ゴミ箱に捨てたのを

秘書の K さんが、かろうじて拾ってくれた

というお粗末を今でも覚えている。

しかし、私には、卵形線が、かけがいのないものであった。

今にして思う苦労話である。

投稿日 2013/04/05 | リンク用 URL | コメント (0)

2013/04/06

研究 余話 No 1 3

入試処理システム開発

高校の理科実験室に2台の8bitcpuのpcを

暑い夏休みに持ち込んで、

二人で、分担モジュール開発をした。

入試委員になって3年目か、4年目であったように思う。

システムテストデータは、前年度の成績を使ったと思う。

pcしょうりの最大の利点は、総合得点の順位付けである。

1000人ぐらいの順位付けソートには、

3人で延べ9時間ぐらいかかっていたように記憶する。

成績順位で、合否が決まる。最後のボーダーライン引きの資料は、

間違いを許されない。一夏かけて作った処理プログラムの

運用手順まで用意して、実践に臨んだ。しかし、ここでも、

冬の処理室の2台のpcに問題が起こった。

理科の共同開発者の先生が、入力処理をしている最中に、

私のところに真っ青になって飛んできたのである。

先生、電源が落ちたどうしようとして行ってきたのである。

事もあろうに、処理室の暖房ストーブの電力の使いすぎをしたのである。

入力データが消えたら、再入力で、合格発表が遅れる。対外問題である。

私はそのとき冷静であった。

8bitPC の 1 3 5 k 外部メモリデスクシステムの

再々の電源 off の失敗経験を積んでいたのである。

フロッピィメモリーの記憶は、

処理データの 1 つぐらいしか消えないのである。

データ、ダンプで二人は、安心した。

処理開発の、思い出事故であった。

現今、原子熱を冷やすことという、初歩的処理すら、

事故事前体験ができないほどシステムが、大きく成っている。

大変な大規模システム開発時代である。

研究に、予断は許されない。

投稿日 2013/04/06 | リンク用 URL | コメント (0)

2013/04/10

。

投稿日 2013/04/10 学問 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 No 1 4

ライバル 井下剛

医学の道を行き、

アメリカに日本文化剣道を普及した友、剣道7段

3回結婚、今は、仕事の同僚の看護師さんと4人の子供を育ててる。

そういう、学生医だった彼、

発狂した私を病院に見舞ってくれ、

一本指で私の足の裏をさすり、

診断してくれた薬の副作用を、二人で、病院の廊下で卓球をしたとき、

運動失調症であった、涙

毎年暮れ、ロブスターを贈ってくれる

今は、私の方が上、一人だが、数学の女神が、私にはいる。

そう思っている。ありがとう井下剛さん。

祝賀会の夜最終に遅れ、

初婚の夜の二人の寝姿を

隣の晴れの bed を譲ってもらいで

寝ながら見守った奇妙な仲。京都の彼の下宿での出来事。

大阪と京都で行き来していた年3回。

彼は、京大医学部助手と診断7番勝負をし勝ち、

横須賀米軍病院研修後二人で渡米

今がん専門医

我々もおいた。が、まだまだ仕事している。

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (0)

(0)

投稿日 2013/04/10 | リンク用 URL | コメント (1)

2013/04/11

研究 余話 No.15

Research With Maria

We meet on Facebook and share 3D flower making.

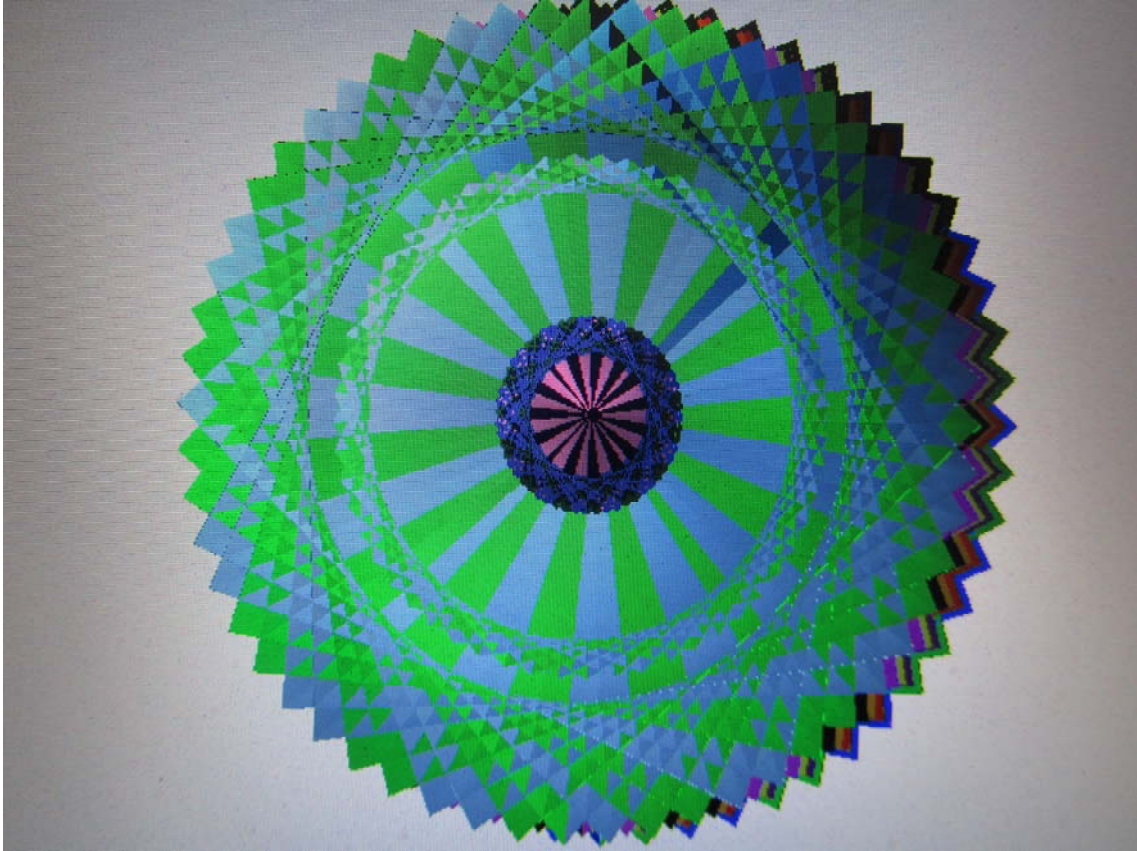
She is mathe wife now.and we enjoy mathe on WEB

thankyou MARIA and all.

投稿日 2013/04/11 | リンク用 URL | コメント (0)

研究 余話 余話 NO.1

f l o w e r o u r l o v e f o r a l l



Congratulations, Professor Hirotaka Ebisui, for these your beautiful stories, that flow spontaneously from the heart of generous person like you, who has conducted his research in an isolated manner, but with great selflessness. The time will do justice, just as it did with the great who have preceded you and as you have distinguished science and its history. Thank you so much for all that you give to us in this wonderful blog and to the advancement of science, in which, one day soon, you will certainly have a place of great prestige. Good luck to you Professor... surely you know what it means to search.

Sincerely,
maria intagliata

発狂のコメントより Himag_407n_star78

投稿日 2013/04/11 | リンク用 URL | コメント (0)

研究余話余話 No 2

人類の研究を救ったコンピュータートレース機能

放射線研究所で、DS86のプログラムインストール作業、

アメリカから来た研究員が DEMO 実行した。

その場に立ち会った私は、大学時代覚えた、

プログラム実行の TSS バックアップ機構、

トレースを実行前にセットさせてもらった。

一回の DEMO 作業ではどうても覚えられなかった

ドシメトリーシステム DS86 プログラム機能

これを放射線研究所用に、

インプリメントできたのは、

トレースリストを後から何回も見て、

機能を確認できたからである。

大学時代の、電子レンズ設計シュミレーションに使った、

トレースを知らなかったら、

原子爆弾の線量研究は、できなかったのである。

放射線量の安全基準もできなかったことになる。

DS86を、インプリメントできなかったら、

私は責任ととって、病気になるか、死んでいたかもしれない。

人類の過ちを、死んでいった人たちが浴びた線量を、平和利用に、

復元できたのも、とっさに思いつけた、

自分の行動である。

馬鹿にできないほど多くの人に関わった

原爆の後始末作業中の人生の出会いである。

投稿日 2013/04/11 | リンク用 URL | コメント (0)